



株式会社 キムラタン

第59回定時株主総会

2022年6月29日

2022年3月期 事業の経過及び成果

2022年3月期の主要施策

アパレル事業の損益分岐点引き下げに取組み単年度黒字化を目指した

運営効率化 取組み強化

- 立地に応じたブランド最適化、集約・統合等の効率化
- ブランドやアイテム拡充による量販専門店との取組み強化

粗利益率の さらなる向上

- 原価低減に対する継続的な取組み
- ディストリビューション強化等による値引き率の低減

物流内製化 効率化

- 2021年6月に物流業務の内製化を実施
- 全社的な物流効率化、在庫一元化による消化率の向上

事業ポートフォリオの転換

アパレル事業の大幅縮小と不動産事業拡大により収益構造を改革

経営再建・財務基盤強化

事業ポートフォリオの転換

アパレル

多額の赤字解消のために
事業規模を大幅縮小

不動産

事業拡大により
全社的な収益基盤を構築

連結経営成績 売上高

売上高は主に店頭売上不調とECの反動減により10.0%の減収

	2021年3月期		2022年3月期		増減額	増減率
	実績	売上比	実績	売上比		
売上高	4,708	100.0%	4,237	100.0%	△470	△10.0%
売上総利益	2,169	46.1%	1,796	42.4%	△372	△17.2%
販管費	2,607	55.4%	2,361	55.7%	△246	△9.4%
営業利益	△437	△9.3%	△564	△13.3%	△126	-

連結経営成績 売上総利益

利益率は円安と値引き販売増加により3.7ポイント悪化

	2021年3月期		2022年3月期		増減額	増減率
	実績	売上比	実績	売上比		
売上高	4,708	100.0%	4,237	100.0%	△470	△10.0%
売上総利益	2,169	46.1%	1,796	42.4%	△372	△17.2%
販管費	2,607	55.4%	2,361	55.7%	△246	△9.4%
営業利益	△437	△9.3%	△564	△13.3%	△126	-

連結経営成績 販売費・一般管理費

店舗経費、運送費、物流委託料等の減少で全社で2億46百万円減少

	2021年3月期		2022年3月期		増減額	増減率
	実績	売上比	実績	売上比		
売上高	4,708	100.0%	4,237	100.0%	△470	△10.0%
売上総利益	2,169	46.1%	1,796	42.4%	△372	△17.2%
販管費	2,607	55.4%	2,361	55.7%	△246	△9.4%
営業利益	△437	△9.3%	△564	△13.3%	△126	-

連結経営成績 営業損益

減収と売上総利益率の悪化により営業赤字は126百万円拡大

	2021年3月期		2022年3月期		増減額	増減率
	実績	売上比	実績	売上比		
売上高	4,708	100.0%	4,237	100.0%	△470	△10.0%
売上総利益	2,169	46.1%	1,796	42.4%	△372	△17.2%
販管費	2,607	55.4%	2,361	55.7%	△246	△9.4%
営業利益	△437	△9.3%	△564	△13.3%	△126	-

連結経営成績 営業外損益・特別損益

円安による為替差損の増加、構造改革費用・減損損失を特損に計上

	2021年3月期	2022年3月期	増減額	増減要因等
営業利益	△437	△564	△126	
営業外収益	52	28	△24	助成金収入が減少
営業外費用	49	73	+23	円安により 為替差損 増加
経常利益	△434	△609	△174	
特別利益	32	6	△26	前期は不動産売却益計上
特別損失	8	286	+277	事業構造改革費用、減損 計上
法人税等	5	3	△2	-
当期純利益	△416	△892	△476	

アパレル事業の概況

店舗売上の上期苦戦とネット通販の前期からの反動減により9.5%減収

	2021年3月期	2022年3月期	増減額	増減率
アパレル事業	4,494	4,068	△426	△9.5%
店舗業態	2,408	2,220	△188	△7.8%
ネット通販	1,056	666	△390	△36.9%
卸・海外	1,027	1,182	+154	+15.1%

その他事業の概況

不動産事業が純増するが保育園運営受託契約変更により全体で減収

	2021年3月期	2022年3月期	増減額	増減率
その他事業	213	169	△44	△20.8%
保育園・ ウェアラブル	207	103	△103	△50.0%
不動産	6	65	+59	+982.1%

連結財政状態

892百万円の損失計上により自己資本比率低下。資本増強が課題

	2021年3月期	2022年3月期	前期比	増減要因等
総資産	3,470	2,587	△882	
流動資産	2,605	2,462	△143	
現金・預金	505	605	+99	
売上債権	582	523	△59	
商品・製品	1,342	1,217	△125	仕入適正化と消化率向上
固定資産	864	125	△739	物件売却によりM&A資金調達
負債	2,467	2,467	△0	
支払手形・買掛金	280	364	+84	
借入金	1,787	1,494	△292	
純資産	1,002	119	△882	
自己資本比率	28.5%	3.8%	—	資本増強・健全化が喫緊の課題

事業報告、連結計算書類等

事業報告

設備投資の状況～会計監査人の状況 5～11ページ

連結計算書類

12～15ページ

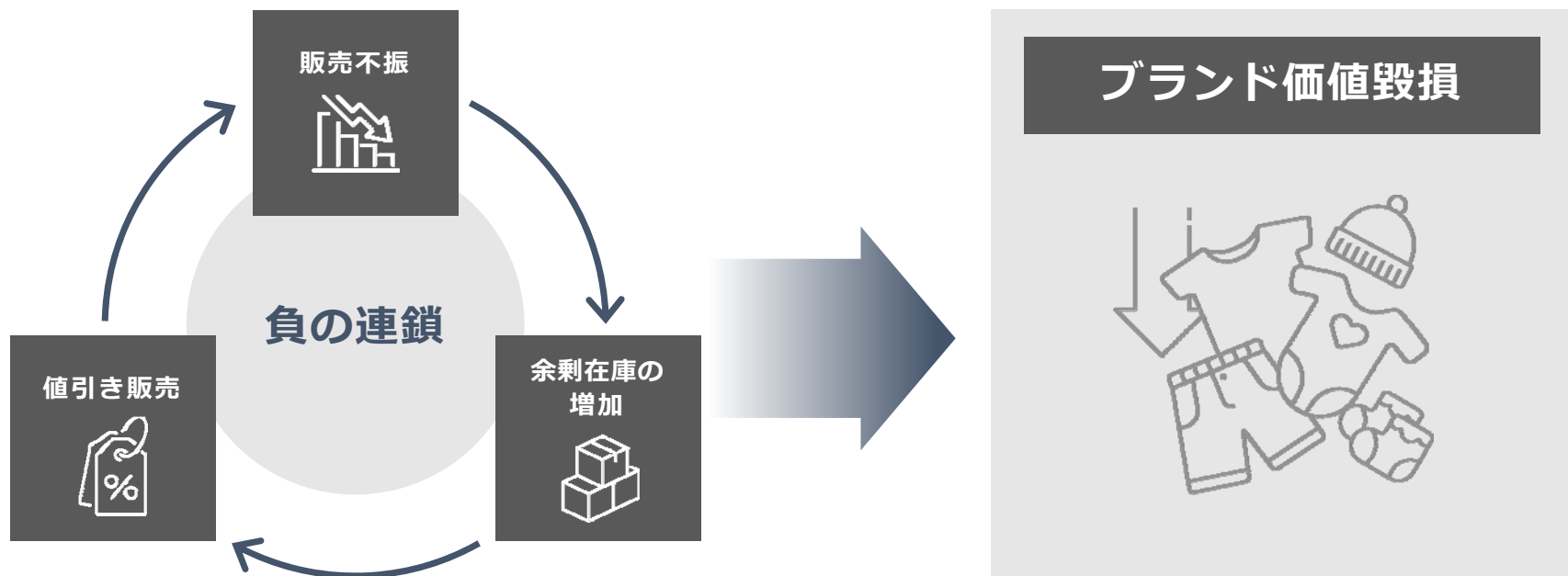
計算書類

16～19ページ

2023年3月期 事業計画の概要

業績悪化の本質的原因

コロナ禍の影響は軽微ではないが本質的原因は「ブランド価値の毀損」



厳しい現状を真摯に直視し、負の連鎖を断ち切ることが急務と認識

事業ポートフォリオの転換（再掲）

アパレル事業の大幅縮小と不動産事業拡大により収益構造を改革

経営再建・財務基盤強化

事業ポートフォリオの転換

アパレル

多額の赤字解消のために
事業規模を大幅縮小

不動産

事業拡大により
全社的な収益基盤を構築

アパレル事業の縮小計画

事業規模を大幅に縮小し赤字解消を図るとともに自己の強みを再認識

1

約**210店舗**を2022年5月から
2022年12月までに**退店**

EC中心に
チャンネル絞り込み

2

ベビー・女兒向けに
ブランドの**絞り込み**

自社の**強みのある**
領域に**集中**

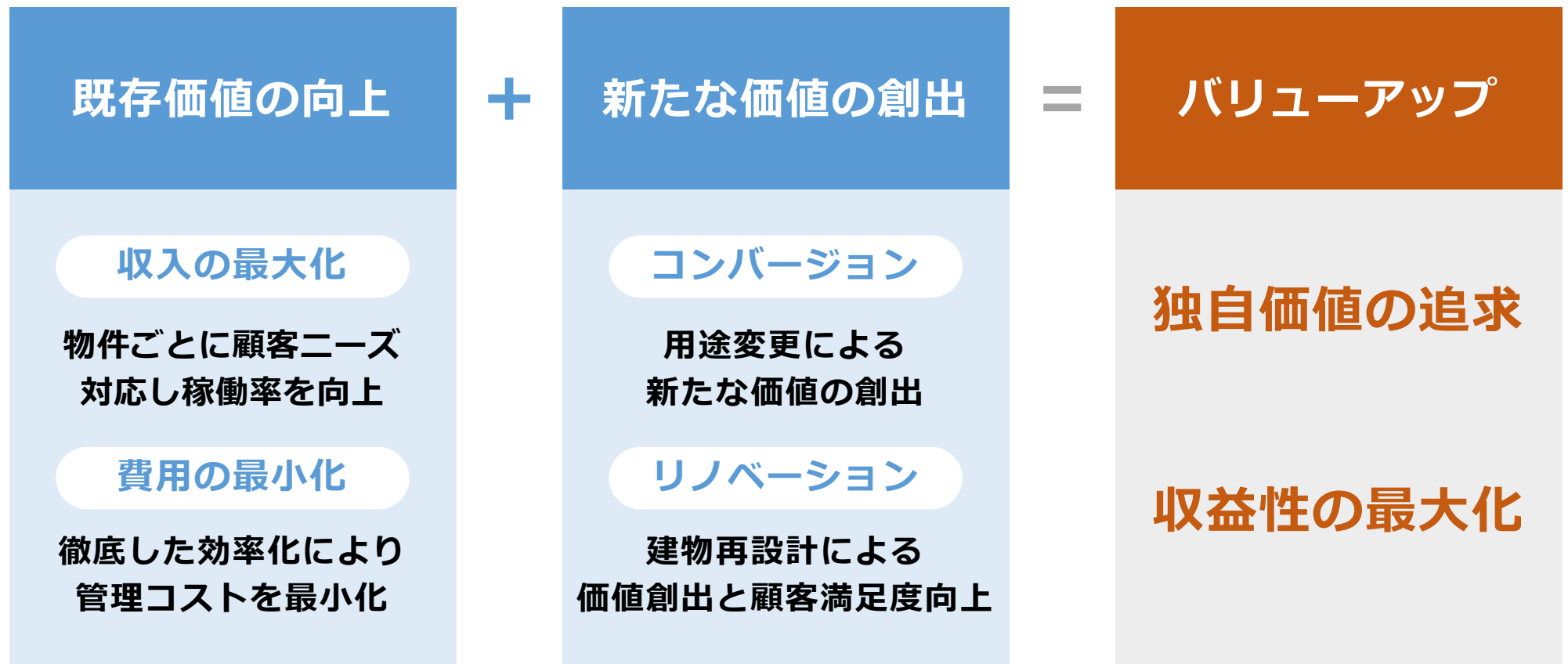
3

本部体制の徹底した**スリム化**

本社人員体制の**縮小**
固定費の削減

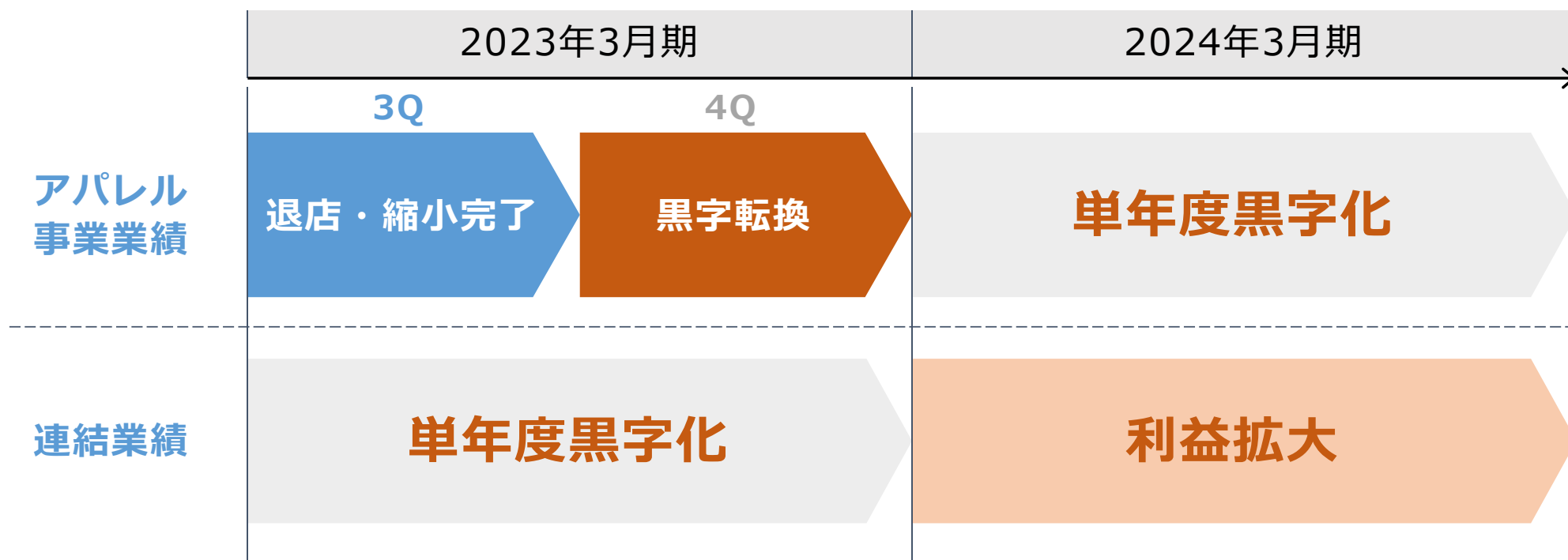
不動産事業戦略

価値向上、新たな価値の創出により独自性と収益性の最大化を目指す



黒字転換のイメージ

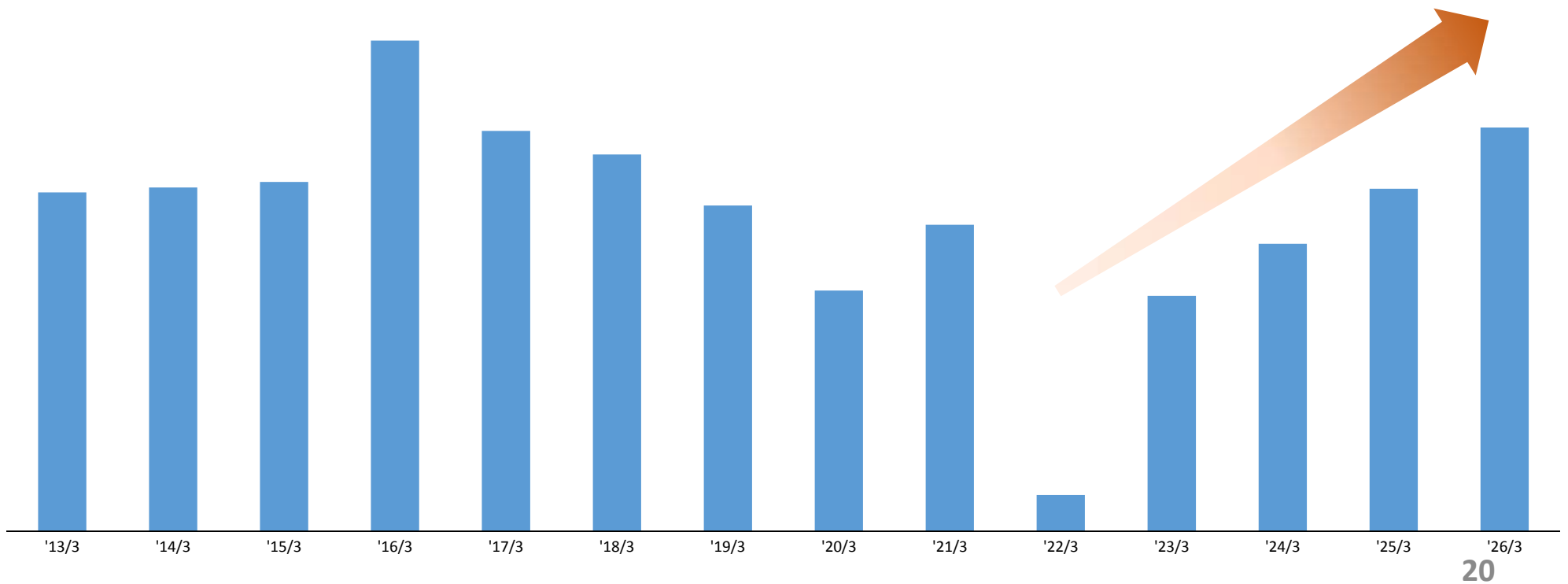
2023年3月期の全社単年度黒字化を目指す



資本増強

DESによる資本増強を実施。安定的に利益積み上げ財務体質の改善図る

自己資本の推移



2023年3月期通期業績予想

アパレル事業の赤字縮小と不動産収益により8期ぶりの単年度黒字化目指す

	2022年3月期		2023年3月期		増減額	増減率
	実績	売上比	実績	売上比		
売上高	4,237	100.0%	4,000	100.0%	△237	△5.6%
営業利益	△564	△13.3%	160	4.0%	+724	-
経常利益	△609	△14.4%	60	1.5%	+669	-
当期純利益	△892	△21.1%	50	1.3%	+942	-



KIMURATAN